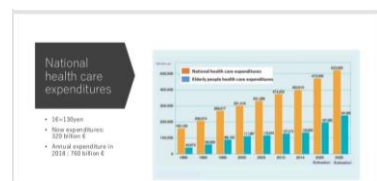
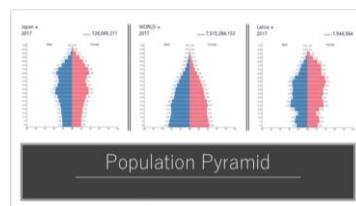
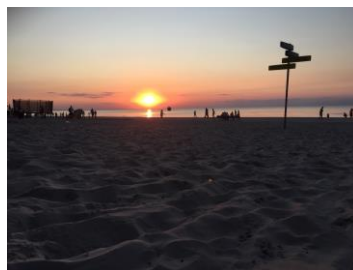


熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	A さん		
所属	工 学部・大学院 機械数理工 学科・専攻		
留学先機関名	リガ工科大学 (国名： ラトビア)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマースクール ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	H30 年 8 月 9 日－ H30 年 8 月 24 日	留学開始 時学年	1 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☒ JASSO 海外留学支援制度 ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 ☐ その他 ()		



1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 (語)		
勉強方法	英会話アプリケーション・テキスト・英単語帳		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用(おおよ その費用)	☒ プログラム費用 47,000 円 ☒ 宿泊費用(寮／ホームステイ等) 30,000 円 ☐ ビザ申請 円 ☒ 渡航費(□片道 ☒ 往復) 238,570 円 ☒ 海外旅行保険料 15,390 円 ☒ 食費 10,000 円 ☒ その他(お土産・交通費等) 40,000 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	JAL・フィンエアー	手配	阪急交通社 ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	福岡空港→羽田空港→成田 空港→ヘルシンキ空港→リ ガ国際空港	到着 時刻	22 時 【※移動時間(約 10 時間)】
大学(寮)への 移動手段	☒ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☐ 公共交通機関(□バス □電車) □その他()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	特になし		
宿泊先	☒ 寮 ☐ ホームステイ その他(ホテル)	宿泊 手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他()
部屋の種類	☐ 一人部屋 ☒ 二人部屋 その他(寮は 6 人部屋)	ルーム メイト	☒ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他()
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	寮やホテル、旧市街など Wi-Fi は充実しているので、特に何も準備していかなかったが生活には差し支えなかった。携帯電話は常時機内モードにしていた。教室での Wi-Fi が弱く、使えなかったのが少し不便だった。VISA カードは大抵のお店で使える。変圧器は C 型。保険は阪急交通社さんから案内された保険に加入した。		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	イングリッシュコミュニケーションの授業では、先生からの質問に答えたり、逆に先生に質問をしたりする活動や、写真の説明をしあう活動、配られたテキストのコピーのプリントに沿っての学習などを行った。 ソーシャルイノベーションの授業では社会情勢についてパワーポイントを使つての説明や、3～4 人のグループでいくつかの社会問題の解決策を考えて先生方とディスカッションする活動などを行った。 数回ソーシャルイノベーションの授業を使って最終プレゼンのための準備を行った。解決する社会問題は、ほぼ自由にグループで決めることができた。最終プレゼンの前日は、プレゼンをするグループでスライドを作成したり、発表の流れを確認したりなどの準備を行う日に当てられていた。 Koknese への観光や旧市街のツアーなど観光も充実していた。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	留学先大学のサポートはあまりなかったが、寮やホテルは快適で、近くのモールの中にはスーパーもあるので不足したものの買い物や、食事には困らなかった。寮には受付の人がいつでもいるのでコインランドリーの使い方などわからないことがあったときに聞くことができて安心だった。1 日だけ違うホテルに移動しなくてはいけないというトラブルもあったが、その他は快適に生活できた。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	特になし。
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	休日は、旧市街でお土産を買ったり、ユルマラのビーチに日の入りを見に行ったりした。旧市街は有名なお土産屋さんやレストランをインターネットで調べてから観光した。ユルマラへの観光は先輩方が誘ってくださって、熊大から留学した全員で日の入りを見に行った。 現地学生は基本夏休みのため学校にいなかったなので、あまり交流できなかった。Koknese への観光や、民族博物館に行く際、ディベート、最後のイベントでご飯を食べる時などは、ロシア・トルコ・ウズベキスタンなどからの留学生と多少交流することができた。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

語学に関しては、授業を通してリスニング力が多少は鍛えられたのではないと思う。また、英語で話すことへの抵抗が薄れたような気がする。

普段は接する機会があまりない海外の方や、他学部・他学年の方と交流したことで、新しい考え方を得たり、刺激を受けたりすることができた。

最終プレゼンに向けての授業や準備を通して、様々な社会問題への関心が深まったことも今回の留学に行った1つの収穫だったと思う。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関する事など自由に記載してください）

イングリッシュコミュニケーションの先生はアメリカとイギリスの先生でとても楽しい授業だったので、あまり心配はいらなかった。

治安もよく、物価も日本と同じか少し安いくらいで、留学先としては最適な場所だったと思う。公用語はあくまでもラトビア語なので、看板やメニューの表記はラトビア語が多かったが、若い人や土産屋さんの店主は英語が話せる。寮はとてもきれいで快適だったが、ドライヤーはなかったので持っていくと便利だと思う。寮にはキッチン設備があり、鍋やフライパン、食器、ケトルは常備されていた。電子レンジやトースターなどはない。

最終プレゼンをするにあたりインターネットを使って調べ物をしたり、スライドをつくらなかったといけなかったので私はPCを持って行って正解だったと思った。

留学を通しての感想

私は今回の留学が人生初の海外渡航だった。行きは東京に台風が直撃したために飛行機の便が変更になり、大変だったが、最終的にはとても楽しい留学となった。

私は、留学に行く前は英語に対する苦手意識が大きかったが、ラトビア留学中にほかの国の留学生や、熊本大学から一緒に留学した方々を見ていて、もっと英語を勉強しようというモチベーションが沸いてきたので、留学を申し込んでよかったと思った。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	B さん		
所属	_____工学部 _____マテリアル工学科		
留学先機関名	リガ工科大学 (国名：ラトビア)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	H30 年 8 月 9 日ー H30 年 8 月 24 日	留学開始 時学年	3 年次
奨学金 (奨学金を受給し た場合)	☐ 奨学金受給無し ☒ JASSO 海外留学支援制度 ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 ☐ その他 ()		



1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 (語)		
勉強方法	英単語の暗記、Shadowing、日常英会話の習得、速読、Listening		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用（おおよ その費用）	☒ プログラム費用 77000 円 ☐ 宿泊費用（寮／ホームステイ等） 円 ☐ ビザ申請 円 ☒ 渡航費（ ☐ 片道 ☒ 往復） 230000 円 ☒ 海外旅行保険料 14500 円 ☒ 食費 35000 円 ☐ その他 () 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	FINNAIR	手配	阪急交通社
移動経路 ※往路のみ	飛行機、バス	到着 時刻	午後 11 : 00 【※移動時間（約14時間）】
大学（寮）への 移動手段	☒ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☐ 公共交通機関（ ☐ バス ☐ 電車） ☐ その他 ()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	大学が手配してくれたバスが用意されていたので、お金はかからなかった。		
宿泊先	☒ 寮 ☐ ホームステイ ☒ その他 (ホテル)	宿泊 手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他 ()
部屋の種類	☐ 一人部屋 ☒ 二人部屋 その他 ()	ルーム メイト	☒ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他 ()

その他生活に必要な手続き、アドバイス（口座開設、保険、携帯電話、荷物、支払い方法など）	生活の中では現金よりもカードで支払うことが多かったので、持っていくすぎないことに注意したほうが良い。Wi-Fi 環境が整っている施設が多いため、ポケット Wi-Fi などは必要なかった。 非常に治安がよく、最低限の注意を払っていればすりや置き引きには会わないと感じた。
--	--

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	授業内容は現地の学生とのグループディスカッションや意見交換を期待していたが、夏休みのため大学の生徒はいなかった。しかし、自分たちと同じようにサマープログラムに参加していた他国からきた学生と交流できた。主に英語の文法についてや経済学についての授業であった。フィールドワークは市街地や歴史的な有名な施設を散策し、ラトビアの起源や文化について学んだ。スケジュールについては全く切迫しておらず、学校が終わった後に観光することができた。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	日本語は一切通用せず、すべて英語だったが、全指導員聞き取りやすいようにはっきり話してくれるなどしてくれた。またプレゼンテーマ決めについては日本人がシャイであることから、打ち解けて話せるように、地元のクラフトビールを飲みながら話し合いをさせてくれた。寮に関しては Wi-Fi 環境も整っており、近くにスーパーもあったため、とても快適に過ごせた。途中からホテルに移動したり、一日だけまた別のホテルへ移動しなくてはならないハプニングも起こったが、その分多くのことを経験できた。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	学生証の発行や履修登録の設定はなかった。あったとすれば入寮する際の情報記入程度であった。

休日や余暇の過ごし方 (観光、現地学生との交流等) ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	大学近くにバス停があったため、すぐ世界遺産に認定されている旧市街に観光しに行くことができた。とは言っても、大学近くの橋を渡ればすぐ市街地だったため、運動や節約に歩いていくこともできた。食べ物がおいしいため、食べ歩いたり黒ビールを飲んだりして街を歩き回った。また市街地の駅から電車に乗って、授業中に先生に教えてもらった、夕日が綺麗な海まで行って遊んだ。大学近くの河の岸にビーチがあったため、プログラムで一緒だったロシア人の学生とビーチバレーをして遊んだりもした。
---	---

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）
今回のプログラムを通して、自分の英語は海外では一切通じず、現地の人の発音は単語しか聞き取れないことが分かった。TOEICの点数で少し満足した気ではいたが、まだまだ伸びしろは十分にあり、努力のし甲斐があることが分かり、英語へのやる気を取り戻せた。自分は言葉がうまく通じないことをあまり気にしていなかったため、積極的に話しかけることができた。文章でうまく表現できないときでも、単語やジェスチャーで自分の考えや気持ちを伝えられることが分かったため、海外への漠然とした恐怖はだいぶ拭えた気がする。ラトビアの人はオンとオフをはっきり分けており、楽しむことがうまいと感じた。どの場所においても日本のような切り詰めた雰囲気を感じず、リラックスして観光、授業、交流をすることができ、初めての感覚だった。
同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関する事など自由に記載してください）
自分は海外に行くことが初経験で、国際線に入ったあたりから緊張していて、飛行機の中では一睡もできず、向こうで少し時差ボケに悩まされたが、来てよかったと何度も思えた。海外未経験の人こそもってこいのプログラムだと思う。何か忘れ物しても、近くのスーパーでなんでも揃ってしまうし、食べ物もおいしい。
留学を通しての感想
今回のプログラムは正直、ハプニングの連続でどうなるのかわからない状況で動かないといけなため不安だったが、その不安を吹き飛ばしてしまうほどの感動、発見を体験できてこのプログラムを企画・運営してくださった方々に感謝を言いたい。元々、海外には興味があり、行く前に色々をイメージしていたがいい意味で覆してくれた。自分はこれまで小さな世界しか知らなかったということを知らされた。どんなに目が青くても、髪が金色でも、肌の色が自分と違って、同じ人間として、考えや意思を伝えられることが分かって、今後それらを共有したいと思えた。だから、現在共通言語の英語を学ぶことの大切さを自分の中で再認識できた。本当に楽しかった。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	C さん		
所属	文 学部・大学院 コミュニケーション情報 学科・専攻		
留学先機関名	リガ工科大学 (国名： ラトビア)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	H30 年 8 月 9 日－H30 年 8 月 24 日	留 学 開 始 時 学 年	2 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☒ JASSO 海外留学支援制度 ☐ 国際奨学事業 ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 ☐ その他 ()		

1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 () 語)		
勉強方法	IELTS の過去問を利用した勉強		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用 (おおよ その費用)	☐ プログラム費用 約 8 万 円 ☐ 宿泊費用 (寮／ホームステイ等) ※プログラム費用に含まれる 円 ☐ ビザ申請 円 ☐ 渡航費 (☐ 片道 ☒ 往復) 約 25 万 円 ☐ 海外旅行保険料 約 1.5 万 円 ☐ 食費 約 4 万 円 ☐ その他 () 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	日本航空, Finnair, Balticair	手配	大学プログラムを利用 ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	福岡、羽田、ヘルシンキ、リ ガ	到着 時刻	現地時刻 22 : 00 頃 【※移動時間 (約 13 時間)】
大学 (寮) への 移動手段	☒ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☐ 公共交通機関 (☐ バス ☐ 電車) ☐ その他 ()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	大学の手配があったため特になし		
宿泊先	☒ 寮 ☐ ホームステイ その他 (ホテル)	宿泊 手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他 ()
部屋の種類	☐ 一人部屋 ☒ 二人部屋 その他 ()	ルーム メイト	☐ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他 ()
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	クレジットカードの準備をしたほうが支払いが楽、お祭りではク レジットカードが使えない出店もあった		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	工科大学ではあったが、文系からも参加できるコースであり、現地での授業は、Sociology や English Communication が主であった。また、Field trip や街を散策する日も準備されており、授業で英語を学ぶだけでなく、観光をしながら文化を学ぶ機会も与えられていた。基本的に朝から夕方までの授業であったため、夕方以降は自由に行動ができた。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	語学面…公用語がラトビア語であるため、リスニングの勉強にはあまりならない。現地の人の中には英語が通じない人も稀にいるが、基本的には通じる。 学校生活…不自由なことはあまりなかった 住居・日常生活…寮は清潔。基本的な調理器具はある。途中から移動したホテルも近かった。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	留学先大学から渡された書類に記入するだけ
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	休日は基本的に観光。 留学前に準備したガイドブックやネットで探した場所へ行った。現地の学生は基本的にいない。異なるサマースクールに参加している学生との交流は少しあった。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

公用語がラトビア語であったため、リスニングの勉強にはならない。だが、やはり現地の人と会話するには英語が必須であるため、英語を話すことは必須である。熊本大学の学生しか参加していないプログラムであったため、様々な国の学生が参加するプログラムよりは英語を利用する機会は少ないと思う。

海外では何が起こるかわからないし、一緒に参加している学生も日本人であるため、全てのことを予想することが難しく、それにより物事に臨機応変に対応することができるようにはなっただと感じている。

ラトビアに日本人がいることは珍しいらしく、現地の人に話しかけられることもあった。コミュニケーション能力は確実に向上したと感じる。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関する こと、生活全般に関することなど自由に記載してください）

工科大学ではあるが文系の学生であっても負い目を感じることなく参加できるプログラムであった。だが、理系の学生のほうが、海外ではどのような研究が行われているのかということなどを知るいい機会になるのではないだろうか。

留学前の説明と違うことが起こることは当たり前だから、焦らず行動したり、わからないことがあったら適当な英語でもいいから、なんでも聞いたりすることが大切だと感じた。予定外のホテルの移動や、飛行機の遅延など、さまざまなハプニングがあったが、いい経験になった。

物価は、ヨーロッパにしてはかなり安かった。また、寮の近くにスーパーのようなものもあり、食材や総菜の買い物には困らなかった。

留学前にインターネットでラトビアのことを調べてもあまり情報がないため、わからないことが多いが、行ってから初めてわかることがたくさんあり、新鮮でいい経験ができると思う。

留学を通しての感想

私にとっては、英語の勉強というよりも、ヨーロッパの文化を学べた留学であった。

英語の勉強をしたい人には英語圏への留学をお勧めするが、ヨーロッパの文化や習慣を知ったり、体験したりしたいという人には、ぜひラトビアをお勧めしたい。物価も安く、生活しやすい国だった。また、リガ工科大学は、外国人留学生を多く受け入れているため、英語の教育や英語での授業にも力を入れているようであった。日本人は今まで受け入れたことがなかったようだが、海外からの学生の対応は慣れているようで、不自由を感じることはほとんどなかった。

治安もとてもよく、現地の人でもラトビアはとても安全だと言っていた。安全にヨーロッパに留学をしたい、ラトビアの観光もかねて英語の勉強をしたい、という人にはうってつけの場所だと思う。